

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



を活用した学習の事例（指導案等）



概 要	
学年・教科・単元等	小学校5年生・音楽・詩と音楽の関わりを味わおう
活用方法	「見いだす」場面では、既習の内容を掲示しておくことで、課題を明確にした。「広げ深める」場面では、タブレット端末を用いて、友達と協働的に学ぶ時間を設定した。
成果等	四つの学習過程を位置付け、ICT 機器を効果的に活用したことで、児童は十分に思考を働かせて学習活動を行うことができた。鑑賞で得た学びを、その後の表現活動に生かすことができた。

※指導案や板書計画等は次ページ以降に掲載しています。

第5学年〇組 音楽科学習指導案

指導者 ○○ ○○

- | | | | | | |
|-------|--------------------|--------------|---------|------|------------|
| 1 題材名 | 詩と音楽の関わりを味わおう（6時間） | | | | |
| 教材名 | 表現(歌唱)「冬げしき」 | (文部省唱歌) | 石桁冬樹 | 編曲 | |
| | 鑑賞 | 「スキーの歌」 | (文部省唱歌) | 林 柳波 | 作詞 橋本国彦 作曲 |
| | | 「待ちぼうけ」「この道」 | 北原白秋 | 作詞 | 山田耕筰 作曲 |
| | | 「赤とんぼ」 | 三木露風 | 作詞 | 山田耕筰 作曲 |

【本題材で扱う学習指導要領の内容】

A 表現（1）歌唱の事項

ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。

イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。

ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の（ア）から（ウ）までの技能を身に付けること。

（イ）呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能

B 鑑賞（1）

ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。

イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。

〔共通事項〕（1）ア 思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：
リズム、旋律、フレーズ

2 題材について

（1）題材の目標

- 曲想及びその変化と音楽の構造や歌詞の内容と音楽の構造の関りについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付ける。（知識及び技能）
- リズム、旋律、フレーズなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら聴き取ったことと感じ取ったことの関りについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いたり、どのように表現するかについて思いや意図をもったりする。（思考力、表現力、判断力等）
- 日本歌曲の音楽の特徴などに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や歌唱の学習に取り組むとともに、日本歌曲に親しむ。（学びに向かう力、人間性等）

（2）題材設定の理由

日本の歌曲は時代背景を反映したものが多く、歌詞には作者の深い思いが込められている。我が国には、児童の祖父母の代から長く愛唱歌として受け継がれてきた作品が多くあり、日本語の美しい歌詞と、言葉のもつ語感を大切に作られた旋律とが一体となって、歌う人や聴く人の心を捉えている。しかし、児童がこれらの曲を日常生活で耳にする機会は少なく、歌詞や旋律も現代の曲と比べると単調であるため、印象が残りにくくなっていると感じる。

本題材では、「待ちぼうけ」を中心に山田耕筰の作品を取り上げ、歌詞と旋律が一体となって生み出す曲想や演奏表現の工夫のよさを感じ取らせる。さらに、共通教材2曲を通して、鑑賞で得た学びを歌唱表現に生かしていく。伝統的な文化として歌い継がれてきた日本歌曲に児童が興味・関心をもち、深く聴いたり、詩と音楽が一体となった面白さを歌唱表現に生かしたりする姿を目指し、本題材を設定した。

（3）児童の実態 省略

（4）指導観

〈教材について〉 省略

本題材では、作詞者や作曲者、演奏者の思いや意図を聴き取ったり感じ取ったりしたことをもとに、児童なりに明確にしていくことで、曲の特徴にふさわしい表現を創造させていく。

現在、児童は常にマスクをし、友達と声を合わせて歌ったり、お互いの顔を見合いながら、伸び伸びと表現したりする体験が少ないまま進級してきている。日本歌曲と出会い、鑑賞で得た学びを歌唱表現に生かしていく指導を通して、作詞者、作曲者の思いや意図を理解することで、演奏者である自分たちがどのように表現するか工夫を考えたり、表現したりしていくことで、歌う喜びを味わわせたいと考える。

鑑賞の指導にあたっては、音楽的根拠をもった見方・考え方を身に付けさせるために、一人一人がじっくりと聴く時間を大事にする。全員で聴く時にはCDを活用し、個々で何度も聴き深めたい時には、タブレット端末でイヤホンを使って個々のペースで聴くことができるようにする。友達との意見交流の際には、聴き取ったこと、感じ取ったことをもとに根拠となる表現を理由として述べられるようにする。また、個々で感じたことをグループで共有するためにデジタルホワイトボード（jamboard）を活用する。児童一人一人がそれぞれの工夫についての考えをもち、友達と意見交換をすることで、曲全体を聴き深めることができるようにしたい。

さらに、詩と音楽のつながりについて発問を工夫していくことで、「作曲者がこのリズムにしたのは、詩の中にあるこの言葉を強調したかったから。」「言葉が繰り返されているから、旋律も繰り返されている。」など、児童自身が気付きを言語化しやすいようにしていく。さらに、表現の工夫が異なる演奏者の聴き比べを行うことで、作詞者、作曲家、演奏者の視点に立って、曲の特徴や演奏のよさを、音楽を聴きながら理解することにつなげていく。同じ曲でも、表現する人の思いや意図で強弱や速さが異なり、聴く人の心に印象付けることを実感させたい。作曲家や演奏者の思いや意図を感じ、詩と音楽表現との関わり気付くことができれば、自分たちの思いや意図を表現することにもつながっていくと考える。

歌唱の指導では、鑑賞で得た学びを表現に生かせるよう、2曲の共通教材に取り組む。音楽を形づくっている要素のうち、リズム、旋律、フレーズを中心に、歌いながら曲想表現を工夫していく。古くから受け継がれている曲を通して、日本語の美しい歌詞と言葉のもつ語感を大切にしておつくりされた旋律との一体感を味わい、豊かに表現できるようにしていきたい。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解している。</p> <p>知技曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関りについて理解し、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。</p>	<p>思①リズム、旋律、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p> <p>思②リズム、旋律、フレーズを聴きとり、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態日本歌曲の音楽の特徴などに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

4 指導と評価の計画（6時間）（本時 2/6時間）

次	時配	◎ねらい ○主な学習内容 ・学習活動 ☆〔思考・判断のよりどころとなる 主な音楽を形づくっている要素〕	○教師の働きかけ ・目指す児童の姿	評価の観点 〈評価方法〉		
				知・技	思	態
第一 次	1	◎詩と音楽との結び付きに気を付けて、日本語の歌曲を味わう。		↓ 知 ①記述・発言		
		<p>○声の種類や演奏形態の違いが生み出す演奏のよさを味わって聴く。</p> <p>・声の種類による響きの違いに気を付けて「赤とんぼ」を聴く。</p> <p>・演奏形態による響きの違いに気を付けて「この道」を聴き、聴き取ったことと感じ取ったことを交流する。</p> <p>☆〔フレーズ〕</p> <p>○言葉のリズムや抑揚、語感を感じ取りながら、詩の内容を捉える。</p> <p>・「待ちぼうけ」の歌詞を音読して、1～5番までの内容や様子の移り変わりを捉える。</p> <p>・「待ちぼうけ」の歌詞を音読し、作詞者の工夫を見つけて発表する。</p> <p>☆〔リズム〕</p>	<p>○声の種類や演奏形態の違いによって曲の雰囲気が変わることに気付かせる。</p> <p>・聴き取ったことと感じ取ったことを話し合い、曲の感じの捉え方を共有している。</p> <p>○中国の寓話に由来することを教科書の挿絵で説明することで様子を想像させやすくする。</p> <p>・共通している言葉や七五調の言葉のリズムに気付いている。</p>			

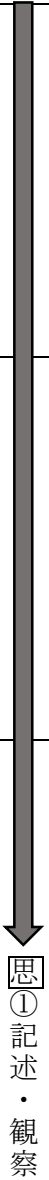
	2	<p>○言葉と音楽の結び付きや、作曲者の工夫に気を付けて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞用CDの「待ちぼうけ」を聴き主な旋律をつかむ。 ・楽譜を見ながら聴いたり歌ったりして作曲者の工夫を見付ける。 <p>○様々な演奏者の「待ちぼうけ」を鑑賞し、演奏者が工夫している表現の面白さに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2種類の演奏を聴いてワークシートに気付いたことを書く。 ・感じたことや気付いたことを発表する。 <p>☆ [リズム、旋律、フレーズ]</p>	<p>○楽譜を見たり音楽を聴いたりすることで、作曲者の表現の工夫に気付けるようにする。</p> <p>○曲と一緒に口ずさんだり、身体表現をしている児童を賞賛する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きやリズムの面白さ、フレーズなど、曲の特徴をつかんで聴いている。 <p>○聴き取ったことを付箋に書くことで、個々の意見をグループで共有できるようにする。</p> <p>○いろいろな演奏者の音源や映像を視聴させることで演奏者の工夫がより実感できるようにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏者による表現方法の工夫の違いを味わって聴いている。 				<p>思①記述・観察</p>
第二次	3	<p>◎歌詞の表す情景を思いうかべながら、曲想を生かして歌う。</p> <p>○「冬げしき」の場面が変わっていく情景を想像しながら歌唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を音読し、情景や心情、言葉のリズムなどを捉える。 ・歌詞の表す情景を想像しながら歌う。 <p>☆ [リズム、旋律、フレーズ]</p>	<p>○1～3番の様子や感じたことをワークシートに書かせることで曲全体の雰囲気をつかえらるるようにする。</p> <p>○難しい言葉については、随時意味を確認をし、歌詞の表す情景を視覚化することで、思い浮かべやすくする。</p>				<p>思②記述・観察</p>
	4	<p>○歌詞の内容を味わい、旋律の特徴に気を付けて主な旋律を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きに着目しながら曲想表現を工夫して歌う。 ・歌詞の内容や曲全体のまとまりを意識して、思いを込めて歌う。 <p>☆ [リズム、旋律、フレーズ]</p>	<p>○言葉のまとまりや旋律のまとまりに着目させることで、言葉と旋律の結び付きに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムや旋律、フレーズに気を付けて表現の仕方を工夫している。 				<p>思②記述・観察</p>
第三次	5	<p>◎思いや意図をもちながら、曲想を生かして歌う。</p> <p>○「スキーの歌」の情景を思いうかべながら主な旋律を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を音読し、主な旋律を模唱する。 ・歌詞の表す情景を思いうかべ、旋律の動きに気を付けて歌う。 ・旋律やリズムの特徴に気付き、曲の構成を感じ取る。 <p>☆ [リズム、旋律]</p>	<p>○雪山の写真やスキーの様子を見せることで、作者の思いや状況を想像させやすくする。</p> <p>○これまでの学びを想起させることで、歌詞の内容や、曲想にふさわしい表現の方法を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発声の仕方や強弱なども意識しながら、曲想を感じて伸び伸びと表現している。 				
	6	<p>○グループに分かれて、旋律やリズムの特徴、フレーズを生かして、主な旋律の歌い方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つのグループに分かれて、フレーズの特徴や曲の構成を生かすためにどのように歌ったらよいか話し合う。 ・工夫したところに気を付けて、伸び伸びと歌う。 ・他のグループの工夫したところを感じ取りながら聴く。 <p>☆ [リズム、旋律、フレーズ]</p>	<p>○リズムカルな部分とダイナミックな部分の表現の違いについて考えさせることで、リズムや旋律、フレーズに意識が向くようにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学びを想起し、グループでの思いや意図を表現するために、表現の方法を工夫している。 ・詞と音楽の関わりを感じながら、演奏者の思いや意図を感じたり、曲のよさを味わったりして聴いている。 				<p>知技②聴取・記述・発言</p> <p>態記述・観察</p>

5 本時の指導（2／6時間）

(1) 本時の目標

言葉と音楽の結び付きや表現の工夫に気を付けて聴く。

(2) 展開

過程	時配 形態	○主な学習内容・学習活動 ☆ [思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素]	○教師の働きかけ ・目指す児童の姿	評価の観点 <評価方法>			資料等
				知・技	思	態	
見いだす	7分 一斉	○前時の学習を振り返る。 ・詩の内容を確認する。 ・言葉のリズム、共通する言葉、作詞者の工夫を確認する。 ○「待ちぼうけ」を聴く。 ・感じたこと、気付いたことを自由に発言する。 ○本時のめあてをもつ。	○前時の学びを拡大歌詞や大型提示装置で共有することで、児童に想起させやすくする。 ○初めに曲を聴かせることで、作曲者の工夫に気付く、本時の意欲を高める。				拡大歌詞 大型提示装置 前時の振り返りスプレッドシート CD
自分で取り組む	7分 個別	○「待ちぼうけ」を作曲した山田耕筈の工夫を見付ける。 ・見付けるポイントを確認する。 ▶特徴的なリズム ▶旋律の流れ ▶フレーズ ・曲をくり返し聴く。 ・聴き取ったこと、感じ取ったことをワークシートに書いて確かめる。	○前時に見つけた作者の工夫の歌詞と旋律を比較してみるとよいことを助言する。 ○「待ちぼうけ」の音楽を繰り返し流しておくとともに、くり返し聞きたい人はタブレット端末で聴くなど児童に聴き方を選択させる。 ○楽譜と歌詞の両方を配付し、書き込みやすいほうを選択させる。				ワークシート CD タブレット端末
広げ深める	10分 グループ	○山田耕作が工夫したことについて話し合う。 ・グループで楽譜と歌詞のスライドをデジタルホワイトボード(jamboard)で共有し、意見を交流する。 ・意見が分かれたところは楽譜を見たり、歌ったり、音楽を聴いたりして確認する	○付箋やペンを使って協働して意見をまとめていくことで、互いの考えを深めさせる。 ○見付けるポイント以外の意見も大切にし、様々な工夫があることに気付かせる。 ○それぞれの感じ方のよさも認め合えるように助言をする。 ・旋律の動きやリズムの面白さ、フレーズなど、曲の特徴をつかんで聴いている。				タブレット端末 大型提示装置
まとめあげる	6分 一斉	○全体でグループから出た意見を共有する。 ・音楽を聴いて確かめる。 ☆ [リズム、旋律、フレーズ]					
	10分 一斉	○2人の演奏者による「待ちぼうけ」を聴き比べる。 ・2種類の演奏を聴き比べる。 ・気付いたこと、感想、聴き取ったことを付箋に書いて、グループで共有する。 ・グループで共有したことを発表し、全体で共有する。 ☆ [リズム、旋律、フレーズ]	○見付けるポイント以外の意見も大切にし、比較させることで、演奏者によって、思いや意図によって表現が違うことに気付かせる。 ○伴奏者にも注目するよう助言をする。 ・演奏者による表現方法の工夫の違いを味わって聴いている。			大型提示装置 タブレット端末	
	5分 個別	○学習のまとめをする。 ・本時の振り返りを自分の言葉でまとめる。	○個々の振り返りをキャストで取り上げることで、次時への意欲をもたせる。			大型提示装置	

6 本時の資料等

「見いだす」場面



声の響きによってどんな感じが表れるだろうか

ソプラノ	高い音が、短く響く感じがしやすい	清々とした感じが表れる
アルト	少し低い音が、短く響く感じがしやすい	穏やかな感じが表れる
テノール	やや低い音が、短く響く感じがしやすい	落ち着いた感じが表れる
バス	低い音が、長く響く感じがしやすい	重厚な感じが表れる

読者の声によってどんな感じが表れるだろうか

「待ちぼうけ」の歌詞を聞いて、どんな感じが表れるだろうか

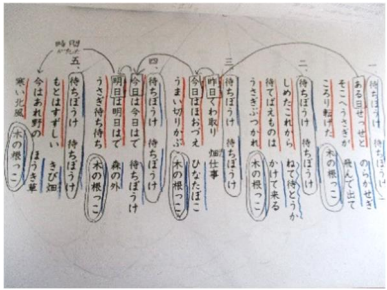
「待ちぼうけ」の歌詞を聞いて、どんな感じが表れるだろうか

自学で調べたこと



R	音楽と国語は結構関係があるという事が分かりました。山田耕祥さんは、作曲しながら日本語の良さをいかして作ってほしいと思います。北原白秋さんの詩は気持ちを季節や風の冷たさや暖かさで表しているということがわかった。ここに山田耕祥さんの曲がついたら親しみやすい歌になるのかなと思いました。
H	①歌詞「待ちぼうけ」は繰り返しが多い! ②聞く音楽で色々な音楽の歴史を作った人達の名前が少し覚えられて楽しかった!!
U	待ちぼうけの詩は何回か繰り返されているところがあり、男の人の気持ちが書いてあった。
A	
B	歌詞に今まで気づかなかった事や歌の意味をわかって良かったです
X	国語の詩と音楽の関係がある事がわかった。
O	繰り返しが多かった!
C	繰り返しが多かったから工夫がしてあるな、と思った。
J	詩などの歌詞に気持ちがよく表れている。国語のことに音楽の関係があったのがわかった。
P	歌詞には言葉を使っている色々な物語を表現している。
S	こういう詩はこうやって作られ、色々な工夫があることなどが分かって、北原さんは気持ちを込めていることが分かりました。

「自分で取り組む」場面



「広げ深める」場面

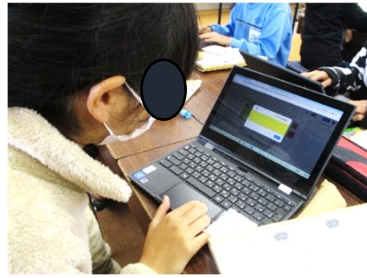
5文字と7文字で作られているからリズムが良い

繰り返しのところはリズムがいろいろ

3と5以外の小節が2分音符がある

2分音符が最後にあるのは、ずっとまわっているということを示している

待ちぼうけ



緑の線のところは音が大きくなる

回ってあるところはリズムがいろいろ

高い音

楽しそうなリズム

ピアノが音

青の線=音の動き

待ちぼうけ